

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4570400269		
法人名	有限会社オアシス		
事業所名	ファミリー・オアシス		
所在地	宮崎県日南市戸高4丁目1-3 (電 話) 0987-23-6117		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】（平成21年6月5日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 5年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤9人, 非常勤1人, 常勤換算9.36人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3階建ての 3階部分		

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	24,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

（4）利用者の概要（平成21年6月5日現在）

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	愛泉会日南病院、山元クリニック、森歯科、山本病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地にあり市役所や警察署、消防署など公共施設が点在する。ホームは4階建てのレストランを改装しており3階にある。また、構造上耐震性にもすぐれ地区の避難場所にも指定されている。2階は、ケアホームがあり定期的に合同で行事など行い交流も盛んである。認知症ケアにおいては、「利用者の尊厳を大切にし、その人らしく地域の中で安心して暮せるよう」を理念に、開設者である代表者の熱い思いが各職員にも伝わり、一丸となって地域に根ざしたグループホーム作りに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価であがった項目においては、代表者、管理者を中心に全職員で検討し、改善計画を立て実施されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員が、それぞれ自己評価に取り組み代表者、管理者を中心に評価をまとめている。今回の自己評価では災害についての取組を挙げているが、その他の項目についても常に先を見据えた日々のケアに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	2か月に1回会議テーマを決め行政、地区長、民生委員、福祉員、地域包括支援センター、利用者家族などの参加の下開催され、積極的に意見交換が行われている。会議であがった意見については、職員全員で話し合い日々のケアに反映できるよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	家族の来訪時や運営会議、家族会の中で意見を引き出すよう取り組んでいる。また、月に1回、それぞれの利用者ごとに、生活場面での写真をふんだんに取り入れた便りが作成され好評を得ている。現状での苦情はないが、聴取した要望等は全職員で話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の祭りや福祉祭り、文化祭など地域の行事に積極的に参加し、交流を図っている。また、ボランティアの受け入れや地域の保育園児の訪問なども積極的に受け入れ、地域との連携に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の立場を尊重し、住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるよう、ホーム独自の理念を作りあげ更に具体化している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念の目標を掲げ、職員会議で実現に向け話し合いがなされている。また、毎朝朝礼で基本理念・介護理念を唱和し共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の公民館で行われている行事や地域の祭りに参加し、地域の人々との交流が図られている。また、ボランティアの受け入れや保育園児とのふれ合いなど、地域交流が積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価表を作成している。また、前回の外部評価の結果を基に、改善計画を立て取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職をはじめ民生委員、福祉員、地域包括支援センター、利用者家族などの参加の下開催され、積極的な意見交換が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの代表者が、市町村に出向き事業所の運営などの意見を伺う機会をつくっている。また、ホームでの行事案内を送付し理解・支援について働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に個々の便りを作成し、近況報告している。また、利用料の支払いは事業所に来ていただくため、月1回は家族と話し合う機会があり、ホームでの生活状況など、個々にあわせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情は少ないが、運営推進会議や家族会を活用し、家族との意見交換を図り、運営に反映させている。また、来訪時に意見を引き出す雰囲気作りができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長と管理者、職員間の信頼関係が構築されており、異動はない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な外部研修受講が可能であり、外部の研修に参加した場合は、復命し職員に伝達している。また、個々においても自由に研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南那珂ブロックでのグループホーム研修会を本ホームで開催し、意見交換を行った。今後、他のグループホームでの研修も計画されており、同業者との交流が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に来訪していただき、本人、家族が納得して利用できるようにしている。また、来訪できない方には、職員が訪問し、本人はもとより家族や入院先から情報を収集し、徐々になじめるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とのかかわりの中で生活の知恵などを学ぶ場面があり、共に支えあう関係作りを築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいか、どのような暮らしを望んでいるか、日々の生活を通じ利用者本位の希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に全職員で話し合い、利用者の立場に立った介護計画が作成されている。また、記録も簡素化されており日々の変化がわかりやすく記載されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回定期的に行われ、月1回は利用者の経過についてモニタリングされている。また、状況に変化が生じた場合はそのつど話し合いが持たれ、計画の見直しと追加が行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じ、通院や買物・外出など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医を選択できる。また、協力医療機関の連携も密に行われており、24時間の連絡体制や定期健康診断・往診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りが行えるよう方針があり、説明書やマニュアル等も整備されている。過去に3名の看取りの実績もあり、家族とも十分話し合いがもたれ、終末ケアに向けた取り組みがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	独自のマニュアルを基に、利用者の対応時はプライバシーを損ねないように十分配慮されている。個人情報についても十分な配慮の下、管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して利用者を強制することなく、利用者の心地よい場所を優先し、寄り添う支援がなされている。趣味のある方は、自由に活動ができ利用者のペースで時間が流れている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員と一緒に料理を作ったり、盛つけ、後片づけを行い、全員で同じ食事を楽しんでいる。また、えんげ・そしゃくの状況に応じて食事形態を工夫し、さりげない介助が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日2時から入浴を行っており、希望時間があればそのつど対応できるよう配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力にあった役割を見つけ、お願いしたり趣味のある方は積極的に活動していただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、ドライブ、幼稚園への訪問、その他、地域の行事に参加するなど、外出の機会が多く取り入れられている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室には鍵をかけずに、日々職員の目配りや気配りによる支援を行っている。また、外出傾向のある方は、本人の生活パターンを把握した対応がなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2 か月ごとに防災訓練を行っており、年 1 回は消防署の参加協力がある。また、夜間を想定した防災訓練も行われている。ホーム自体が地区の避難場所に指定されていることもあり、地域の人々の協力も得られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや季節のもの等、栄養バランスに配慮した献立作りがなされている。また、栄養バランスについてもチェックされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共用空間は、ソファや畳スペースもあり、ゆったりとした空間が保たれ、不快な音や光もない。洗剤などの注意が必要な物も適切に管理され、安心して生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやたんす、装飾など、本人の持ち物や本人に関連した物が持ち込まれており、その人らしい環境づくりがなされている。		

※  は、重点項目。